

「高齢者美術展」が開催されました（第18回徳島県健康福祉祭）

～県内各地から創作品178作品が出展～

高齢者美術展は高齢期の生きがい、余暇活動に対する意識を高めてもらい、あわせて高齢者自らの手による趣味の創作品を広く県民の方々に観てもらおうことで、長寿社会に対する理解を深めてもらおうと実施しているものです。

第18回目を数える美術展ですが、その前身は老人クラブが昭和37年に行った「趣味の作品展」にさかのぼります。老後の楽しみとして行っている趣味活動の作品を、多くの方に観てもらおうと企画された作品展には、600展を超える作品が寄せられたそうです。予想以上の反響に、もう少し権威のあるものにしてはどうかとの意見が出され、昭和48年「老人県展」として、現在の美術展の形に生まれ変わっています。



本年度の美術展は、県内から178作品の応募があり、展示期間の前日12月7日（金）に審査会が行われました。日本画や洋画、書、写真等各部門ごとに専門家による厳正な審査が行われ、「県知事賞」、「県議会議長賞」、「金、銀、銅賞」の各賞が決まりました。

また、特別賞として「最高齢者賞」が彫刻の部で出品した三好市の岩田秀雄さん（96）に決まりました。

なお、上位入賞作品は、来年10月に高知県で行われる「第26回全国健康福祉祭こうち大会美術展」に出展されることになっています。

12月8日（土）から2日間にわたる展示期間には、約400名が来場、高齢者ならではの味のある作品から、高齢者の作品とは思えないような若々しい作品など、訪れた方々はじっくりと鑑賞していました。

（↓は12月9日（日）に行われた表彰式の様子です）

